

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56 人	算数	56 人	理科	56 人
第5学年	国語	59 人	算数	59 人	理科	59 人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

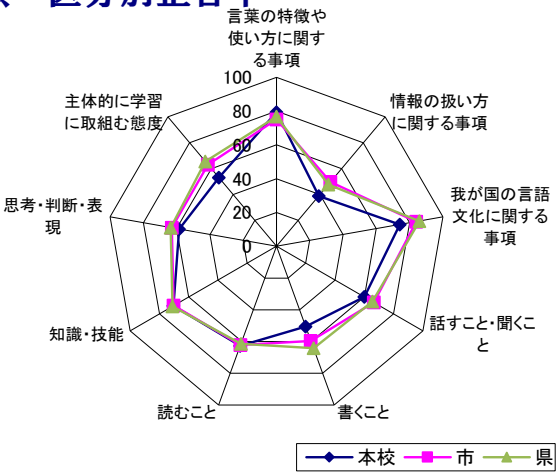
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.4	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	38.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	74.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	60.0	66.5	65.5
	書くこと	50.5	59.6	64.2
	読むこと	62.7	62.2	61.5
観点	知識・技能	70.4	70.2	71.1
	思考・判断・表現	58.5	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.0	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

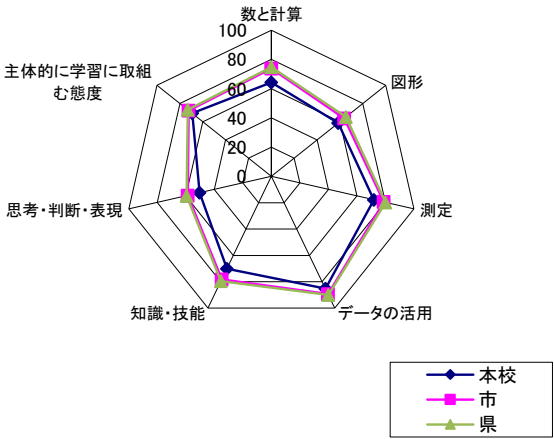
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均を上回っている。 ○漢字の書きや、様子や行動を表す語句に関する設問の正答率が高い。 ●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書く設問の正答率が低い。	・作文用紙で短作文や日記を書く活動を取り入れることで、段落のはたらきや使い方の理解を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均を大きく下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語句を見付けて要約したり、伝えたいことを正しく捉えたりする設問の正答率が低く、無回答も多い。	・読書の時間をできるだけ確保したり、国語辞典を利用したりして語彙を増やすことで、中心となる語句が指す箇所を捉えられるようにし、文章の内容を正確に読み取れるようにする。 ・文章中の事実・根拠を基に自分の考えをまとめる活動を多く取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●漢字のへんやつくりに関する設問の正答率が低い。	・漢字を学習する際に漢字辞典を利用し、成り立ちや部首に着目する機会を積極的に設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問の正答率が高い。 ●相手に伝わるように理由を挙げながら話したり、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる設問の正答率が低い。	・相手に伝えるための話し方の工夫について話し合い、互いに聞き合う機会を設ける。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●理由や事例を明確にして自分の考えを書く設問の正答率が低い。 ●段落や長さなどの条件に合った文章を書く設問の正答率も低い。	・書く力を付けるため、テーマを指定したり、文型を例示したりして、作文や新聞を書く活動を教科横断的に取り入れる。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均とほぼ同じである。 ○物語文を読んで感じたことを共有する設問や、説明文の叙述を基に内容を捉える設問の正答率が高い。 ●物語の場面の様子について、叙述を基に捉える設問の正答率が低い。	・必要な情報を適切に取り出すことができるように、学習に関連する物語文・説明文の並行読書を積極的に取り入れ、本の紹介やまとめ・振り返りに活用していく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.3	73.8	74.8
	図形	58.5	63.7	65.3
	測定	71.9	78.9	80.1
	データの活用	85.2	89.3	90.0
観点	知識・技能	70.2	78.3	79.5
	思考・判断・表現	50.3	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	69.2	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

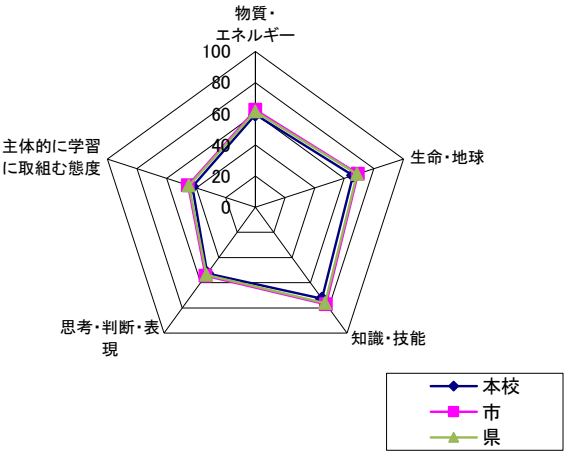
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均を大きく下回っている。 ○文章から問題を読み取り、□を使って式に表す設問の正答率が高い。 ●整数-小数第1位の計算や連続して繰り下がるひき算の問題、かけ算の暗算のしかたの説明をする設問の正答率が低い。	・連続して繰り下がるひき算の計算や2けた×2けたの計算を多く解いていくことで計算の仕方の定着を図る。位をそろえずに計算したり、1けたのたし算やひき算での計算ミスをしったりせず、正確に解くことができるようにする。
図形	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○コンパスと定規を使って二等辺三角形を正確に描く設問の正答率は、県・市とほぼ同じである。 ●大きさが同じ6個のボールが入る箱の横の長さから、ボールの半径を求める設問の正答率が低い。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明をする設問の正答率が低い。	・円や球の直径と半径の関係を押さえて、練習問題に取り組むようにする。また、実物を掲示したり、長さを測定したりする活動を通して、問題から図をイメージできるようにする。 ・説明のしかたのパターンを身に付けられるように穴埋め問題に繰り返し取り組んだり、授業でホワイトボードを活用して説明する機会を増やしたりするなど多くの経験を積むことができるようにする。
測定	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○1分=60秒の関係を問う設問の正答率は、市・県とほぼ同じである。 ●はかりの目盛りの読む設問や身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す設問の正答率が低い。	・誤答を見るとはかりの目盛りを読むことは出来ていると考えられるため、設問をよく読み、数字のみ着目するのではなく、()に書かれている単位をしっかりと見て、解答できるように練習問題に取り組むようにする。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均をやや下回っている。 ●棒グラフの、1目盛りを表す数を読み取る設問の正答率が低い。棒グラフの縦軸の数値を基に、1目盛りの大きさを読まずに解答していると考えられる。	・普段から理科や社会などの他教科でも複数のグラフから気付いたことを説明したり、ペアやグループで話し合ったりする活動を多く取り入れることで、基礎・基本の定着を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.5	62.5	61.5
	生命・地球	65.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	72.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	52.7	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○電気の通り道では、電気を通すものと通さないものを理解して区別する設問の正答率が高い。実験の前に予想を立て、自分の考えをもったうえで実験に取り組んだ成果と考えられる。 ○光の性質では、水を入れたペットボトルが光を集めたことを、虫眼鏡に適用できることに関する設問の正答率が高い。 ○音の性質では、大きい音はふるえ方が大きいことを理解する設問の正答率が高い。 ●磁石の性質では、自由に動けるようにした磁石のN極は、北を指すことの理解に関する設問の正答率が低い。 ●電気の通り道では、おもちゃの構造を理解し、適切な回路を構想する設問の正答率が低い。	・磁石の性質については、磁石を自由に動かしてN極がどこを指すかを実験をする場を設定し、理解を促す。 ・電気を通すものと通さないものの理解はできていることから、日常生活で使う道具などについても実験を設定し、普段から電気の通り道を考える機会を増やす。適切な回路を構想することで電気の通り道の回路の構想についての理解を深める。 ・実験の前に予想を立てることで、自分の考えをもって主体的に実験に臨める。実験後は実験結果の確認を丁寧に行い、内容の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○昆虫のからだのつくりについての設問の正答率がやや高い。多くの昆虫について観察し、からだの仕組みについて記録をとった成果であると考えられる。 ○太陽と地面のようすでは、棒温度計の目盛りの読み方に関する設問の正答率が高い。観察記録を取る際に、温度変化と時刻を関連付けてまとめ行った成果であると考えられる。 ●虫眼鏡の正しい使い方についての設問の正答率が低い。 ●植物の育ち方では、ハウセンカの子葉についての設問の正答率が低い。	・身近な自然の観察については、実際に虫眼鏡を使って生き物を観察する機会を増やし、適切な使い方を身に付けられるよう指導する。 ・植物の育ち方については、ハウセンカの成長記録を実際につける機会を増やしたり、図鑑やインターネットを活用して、ハウセンカやひまわりなどの植物について調べ学習を増やし、ハウセンカをはじめとする植物のからだのつくりの理解を深める。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した児童が多く、辞典やパソコンを使って調べる活動を取り入れた授業を多く取り入れた成果が表れている。

○「毎日の生活が充実していると感じている」と回答した児童の割合が9割を超えており、互いに認め、高め合える学級経営や家族との良好な関係を築けている成果が表れている。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」や「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答している児童の割合が多く、学校生活に満足している状況や家族との信頼関係を築けていることによって、児童が家族とコミュニケーションを取ろうとする姿につながっている。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童が少ない。復習の効果や具体的なやり方を児童に伝え、家で自主学習として取り組めるようにしていく。

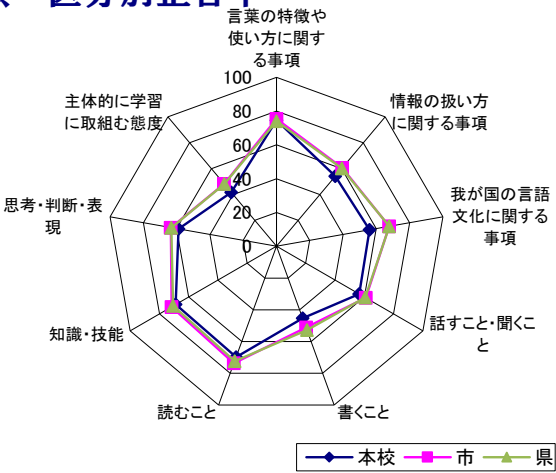
●「社会の学習は好きですか」に対する肯定割合が低い。興味をもてるような内容や視覚的に分かりやすい教材や情報機器を活用した授業の展開を工夫していく。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童が少ない。自分の考えを説明したりペアや少人数で話し合ったりする活動を積極的に授業に取り入れ、自分の意見を話すことに自信をもてるようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.6	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	54.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	55.9	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	56.6	61.0	60.7
	書くこと	45.3	51.2	52.8
	読むこと	69.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	68.9	71.7	70.6
	思考・判断・表現	58.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	41.7	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

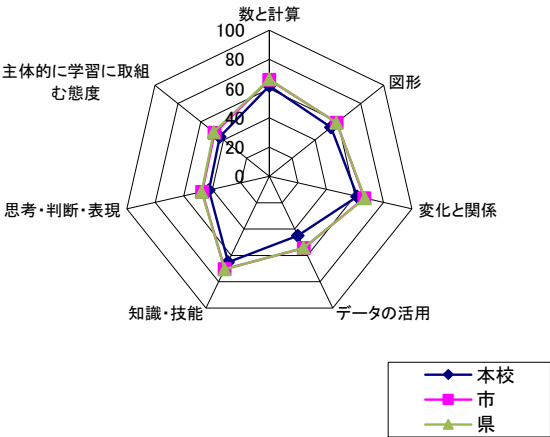
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市・県の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読みに関する設問の正解率が高く、定期的に小テストを行って習熟を図った成果であると考えられる。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の正答率が低い。	・段落を意識して日記を宿題にしたり、百文字程度の小作文に取り組みせたりするなど、自分の考えを記述する機会を多く設定することで指示に沿って自分の考えを記述できるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●漢字辞典の使い方についての設問の正答率が低い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら自分の考えを伝える記述式の設問の正答率が低い。根拠に基づいた意見を文章に表すことに課題があると思われる。	・日常的に漢字辞典を引くことができるよう、教室の環境を整えたり、検索方法を復習しながら新出漢字を調べたりする活動を取り入れる。 ・短い文章を用いて、根拠を基にして意見を述べる活動を多く設定し、定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●ことわざの意味を理解し、文章中で正しく使う設問の正答率が低い。	・児童がことわざに興味をもつことができるよう、図書室や1人1台端末等を利用し、ことわざに触れる機会を多く設定する。 ・宿題や自主学習のテーマの一つに、ことわざを設定することで、意味を調べるだけでなく、活用する機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる記述式の設問の正答率が低い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら自分の考えを伝える設問の正答率が低い。自分の考えを理由や根拠を明らかにしながら相手に伝えることに課題があると思われる。	・話し合い活動を行う際に、相手と自分の意見の相違点を意識して考えさせる活動を取り入れる。 ・なぜそう考えたかを分かりやすく相手に伝えるために、事例を挙げたり、理由を考えさせたりする活動を多く取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く設問の正答率が低い。文章を書くことに抵抗を感じる児童が多いと考えられる。	・書くことへの抵抗をなくすために、テーマを与えて短作文に取り組時間を多く設定し、取り組みやすいテーマを工夫する。 ・理由を挙げながら自分の意見を文章にまとめるなど、自分の考えることを文章化する機会を多く設定していく。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○登場人物の性格について読み取り、具体的に想像する設問の正答率が高い。 ●叙述を基に、段落相互の関係を捉える設問の正答率が低い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率が低い。	・各段落の内容を踏まえて段落と段落の関連を考え、筆者の意見がどのように伝えられているのかを考える活動を行う。 ・説明文の内容を踏まえ、中心となる語や文について考える取り組みを多く設定する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.9	66.1	66.4
	図形	53.8	58.9	58.8
	変化と関係	61.7	66.6	67.0
	データの活用	44.9	54.4	54.2
観点	知識・技能	65.2	70.4	70.6
	思考・判断・表現	42.4	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	43.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

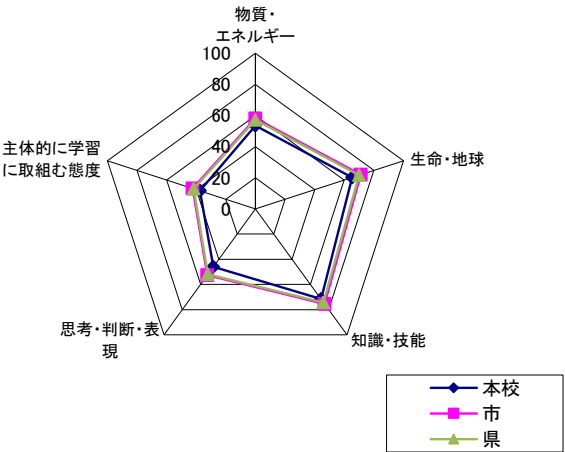
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○数の相対的な大きさを理解しており、小数を10倍した数を求める設問の正答率が高い。練習問題に丁寧に取り組んできた成果であると考えられる。 ●分数の設問で整数・仮分数・帯分数・真分数の大小の比較の正答率が低い。また、分数の計算や、小数の計算の正答率は低くはないものの市の平均を下回っている。	・計算のきまりを再確認し、算数の基礎となる四則計算を整数、小数、分数で確実に正しく答えを求められるように朝の学習や宿題などの充実を図る。 ・分数を朝の学習などで繰り返し取り上げ、習熟を図る。
図形	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読んだり、角の大小を答えたりする設問の正答率が高い。 ●教室のおよその面積を記号の中から選んだり、面積の単位の間隔を説明したりする設問の正答率が低い。	・面積の公式は理解し定着しているため、身近なものの長さを実際に測定し、面積を求める活動を増やしながらか、およその長さや面積をイメージできるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○基準量を求める図を選んだり、立式をししたりする設問の正答率が市の平均とほぼ同じである。 ●伴って変わる2つの数量の関係の式を立てる設問の正答率が低い。伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問は解けるが、式を立てることが出来ないことが課題と考えられる。	・問題を丁寧に読むことで意図を理解し、算数の見方・考え方を働かせる授業づくりを工夫することで、立式できるようにする。 ・数字を当てはめて計算することはできていると考えられるため、□を使った式を立ててから値を求める問題に取り組み定着を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均を下回っている。 ○二次元表を読み取る設問の正答率が比較的高い。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問の正答率が低い。2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問に対して無回答の児童が見られる。	・算数だけでなく他教科においても、複数の折れ線グラフから気付いたことを説明する機会を増やし、読み取る力を付けていく。

宇都宮市立小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

雀宮南

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.5	58.1	57.2
	生命・地球	65.3	71.1	70.0
観点	知識・技能	71.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	45.9	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	37.5	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、多くの設問において市・県の平均を下回っている。 ○乾電池の向きを入れかえたときの、車の向きを答える設問の正答率が高い。実験の前に予想を立て自分の考えをもって実験し、結果から導き出された内容を何度も繰り返し復習した成果であると考えられる。 ●「気泡シートが、閉じ込められた空気のもののような性質を利用しているかを説明する」「予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想できる」の正答率が低い。	・今後も継続して実験で起きた事象を自分で言語化し、何度も復習することで理解に繋げる活動の充実に向けて取り組んでいく。 ・空気の性質については、文章で理解するだけではなく、実験結果や動画など様々な面から性質を理解できるようにする。また、予想を立てたり、自分の言葉でまとめたり、友達に説明するなどの取組を繰り返し行い、理解を深める。
生命・地球	●「数時間後の星座の星の並び方」の正答率が県や市町よりも低い。また、「記録温度計の記録から、天気の変化を推測する」の設問の正答率が低い。2つの事象を関連付けて考えることに課題が見られる。 ●半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月かを判断する設問、季節とサクラの様子を答える設問の正答率が低い。既習内容と実際の生活が関連づけられていないと考えられる。	・星座と時間、温度と天気等の2つの事象を関連付けて考える力を付けるため、まずは「星座の動き」や「天気がどのように変わるのか」といった基本的な事象を、宿題や自主学習などで繰り返し学習し、理解に繋げていく。さらに2つの事象を関連付けて考える問題に繰り返し取り組むことで、考え方に慣れていくようにする。 ・教科書に記載されている事実だけではなく、自分自身の生活体験と結びつけるような活動を授業に多く取り入れる。何気なく見上げている空を写真に撮って比較したり、校庭の桜の木を季節ごとに観察するような実体験を重ね、自分の経験から考えて正答を導き出すことができるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合が高い。話し合う内容を簡潔にしたり、自分の考えをもつ時間を十分に確保したりするなどの手立てを講じ、一人一人の児童が積極的に話し合いに参加できる授業づくりを工夫している成果が表れている。今後は、さらに児童の意見を繋ぐコーディネートに留意した話し合いの充実に努めていきたい。

○「授業の最後に、学習したことをふりかえる活動をよく行っている」と回答した児童の割合が、県や市町村の割合を上回った。児童が自らの学習を振り返り、これからの学びに生かせるようにするために振り返りの視点を示し、各教科とも必ず振り返りの時間を確保してきた成果が表れている。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童が県や市町村の割合を大きく上回っていた。基本的な学習習慣を指導してきた成果である。さらに、このことが「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と回答した児童の割合に結びついていると考えられる。今後も児童のあらゆる発言に価値を見出し、学級全体の学びに生かすことを意識しながら学級経営に取んでいきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と回答した児童の割合が高く、児童との信頼関係構築のために一人一人の実態に応じて丁寧に支援を継続してきた成果であると考えられる。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している」と回答した児童が少ない。個別に目標をもたせて再テストを実施するようにするなど、返却されたテストを見直すための理由付けをして改善を図りたい。今後とも、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、意欲を高める指導を推進していきたい。

●県及び市町村よりも多くの割合の児童が1か月に1冊も本を読まない」と回答していた。朝の読書の時間の充実に図り、クラス全体で読書の時間を確保することで、本を読む機会を増やしていきたい。

●「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」と回答した児童が半数を下回っていた。また「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」と回答した児童の割合は県及び市町村の割合に比べ低かった。簡単な問題からステップを踏むことで成功体験を多く積み、児童の探求心や向上心を高める指導に努めていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童が少ない。児童の自己肯定感を高めるため、児童一人一人が活躍できる場面を設定したり、自分のよさや成長を実感できるような活動を取り入れたりしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをまとめて説明する力の育成	ペアや少人数のグループで話し合う活動の場を各教科で多く設定する。	話す、聞くことに対する抵抗感が減り、話し合うことに意欲的な児童が増えている。(国語、質問紙)
少人数指導、習熟度別指導の充実による基礎基本の定着	少人数指導、習熟度別指導の他に、1人1台端末も併用して学習定着度を把握し、個に応じた学習を進められるようにする。反復学習などを通して、個に応じた漢字・計算など基礎基本の定着を図る。	学習への意欲の高まりが見られてきており、言葉の使い方や基本的な計算問題について定着してきているが、十分とは言えない状況である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、基本的な知識や技能に関わる設問の中で、市や県の平均よりも低いものがいくつかあった。	復習により定着を図る学習の工夫	国語の読解力を付けるため、国語辞典を引いたり読書をしたりする時間を確保するとともに、短文の読解問題に取り組ませる。算数の文章問題の意図を理解できるようにするため、AI学習を取り入れるなど多くの問題に接する機会を設ける。
「家で、テストで間違えた問題について学習している」と答えた児童が少ない。	個に応じた家庭学習の充実	自分の課題を把握し、自主学習に活かせるようにするため、内容の提示をしたり、参考になりそうな方法を友達同士で共有できるようにしたりする。